

科目名		開講時期	開講学年	必修/選択	単位	時間
リプロダクティブヘルス看護学実習		前後期	3 年	必修	2 単位	90 h
担当教員名		メールアドレス		オフィスアワー		
◎難波亜希子、村瀬ゆかり、小山田路子		akiko.namba@tohto.ac.jp		月～金 10：00～16：00		
授業の概要						
妊婦(胎児)、産婦、褥婦および新生児の特徴を総合的に理解し、ウェルネスの視点から対象に適切な看護援助を実践するために必要な基礎的能力と基本的技術ならびに看護専門職者としての基礎的態度を修得する。また、多様なライフサイクルにある女性の理解と必要な看護についても学習する。 * この科目は看護師の実務経験のある教員による授業科目です。						
キーワード		到達目標				
周産期看護 ウェルネス看護 セルフケア 健康生活 生理的変化 出産育児行動 母子保健医療チーム		1. 周産期の母子の身体的・心理的・社会的特性を理解し、適応過程を明らかにすることができる。 2. 周産期の母子とその家族に対する看護過程の展開ができる。 3. 周産期に行われる健康診査や保健指導の内容、母性看護に必要な技術について説明ができる。 4. 母子保健医療チームの一員として、看護者の役割や責任を自覚した行動ができる。 5. 母子保健に関する社会資源の活用について説明ができる。				
学習内容						
1. 妊娠期は産科外来において、指導者の下で妊婦健康診査（一部実施）や保健指導を見学する。 2. 分娩期は、機会があれば産婦を受持ち、指導の下で、分娩第Ⅰ期から分娩第Ⅳ期までの観察やケアの見学、または、指導者と共に産婦の援助を実施する。 3. 産褥期・新生児期は、母子1組を（学生2人、または1人で）受け持ち、看護過程の展開を行い、指導の下で褥婦・新生児の援助を実施する。 4. 妊娠期、産褥期の個別指導及び集団指導を見学する。						
* 上記は、外来/病棟の妊産褥婦や新生児の状況、受け持ち可能な母子の有無や状況により、日々の計画の変動があることを認識しておくこと。 * 詳細は、実習要項を参照						
受講要件						
2 年次後期までの学年進度とされているすべての必修科目の単位を修得していること。						
レポート（実習記録）		その他（実践）		合計		
50%		50%		100%		
教員からのメッセージ						
疾病治療論Ⅵの産科系で学んだ病態・治療などの知識、リプロダクティブヘルス看護学概論、リプロダクティブヘルス看護学援助論で学んだ基礎知識を整理し、リプロダクティブヘルス看護学援助論の看護技術演習で学修した母性看護特有の技術を復習して確かなものとしておくこと。実習開始前に、既習の知識や技術を復習して定着させておくことは、実習を効果的に行うために必要不可欠である。実習中は、積極的に、妊娠・分娩・産褥期、新生児時期における援助を見学または実施する。						